



立命館大学文学部 言語学・日本語教育専攻 「日本語教員養成課程」

○沿革と概要

立命館大学における日本語教員養成課程は、文学部言語コミュニケーション学域にある**言語学・日本語教育専攻**に設置されており、本専攻の学生のみが受講できます。国家資格である登録日本語教員に関しては、本養成課程を修了すれば、基礎試験と実践研修が免除となります。本課程では、日本語授業の実践に必要な知識・技能はもちろん、「多文化が共生できる社会を協創するための資質・能力」を伸ばすことも目標としています。これは、「個人や文化の多様性を認め、社会の一員として行動する」という文学部の人文育成目的でもあります。

○受講資格・定員

文学部言語コミュニケーション学域に入學後、1年生の12月に2年次からの所属について希望の専攻を出します。2年次から「言語学・日本語教育専攻」に所属する学生のみが、日本語教員養成課程を受講することができます。言語学・日本語教育専攻の各学年定員は、45名です。

○専攻として日本語教育を学ぶ利点

本課程の科目は、必修科目12科目（各2単位、計24単位）、選択科目2科目です。加えて、3年次以上で受講できる実習科目として、「日本語教育研修Ⅰ」（2単位）があります。副専攻で学部横断的に展開している日本語教員養成課程とは違い、専攻として日本語教員養

成課程を受講することの主な利点を以下に2点挙げます。

1) ゼミ(卒業研究・卒業制作)を通した学び

3~4年生で日本語教育や異文化間コミュニケーションをテーマとしたゼミでの学びがあります。ゼミでは、各自の興味・関心から研究で明らかにしたい課題を考え、調査を実施し、その課題に答えを出すという卒業研究に取り組みます。または、卒業研究の代わりに、日本語学習者のニーズや既存教材の分析を通して、教材開発をする人もいます。例えば、日本留学を目指して海外で日本語を学ぶ人用の日本語学習動画シリーズや、居酒屋などのアルバイトで使える日本語学習用の教材開発などです。

2) 多様な授業や活動への参加

日本語教育を専門として学ぶので、日本語教員養成課程の単位が全て卒業のための単位としても認められます。これによって4年間で取得すべき単位数に余裕が生まれるので、副専攻で多様な言語を学ぶ、教職課程やデジタル人文学系の授業を受講する、学内外で留学生や日本語学習者へのボランティア支援活動に参加する、国家試験を受験する、といった日本語教員として役立つ学びを並行することも可能となっています。

○課程授業の一例

本課程では、日本語授業の実践に必要となる力はもちろん、「日本語学習者を理解・尊重する姿勢」「多文化社会の人間関係構築力」といった多文化社会で必要となる力を養うための授業が展開されています。異なる言語文化背景を持つ人たちと互いを尊重し、協力する姿勢・態度・技能は、卒業後、職場・育児・地域、など様々な場でも欠かせない力です。本課程では、このような力の育成を目指し、「共生コ

ミュニケーション演習」を開講しています。

「共生コミュニケーション演習」の授業では、留学生と国内学生が少人数グループで学内外のインクルーシブ・デザイン（多様な人を前提にしたデザイン）でのプロジェクトに取り組みます。例えば、宗教やヴィーガンに関係なく、皆が食べられるメニューを提案し、学内食堂で実際に取り入れてもらったこともあります。多様な背景を持つ人たちと一緒にプロジェクトに取り組む中で、言語、コミュニケーションスタイル、価値観といった違いを理解し、協力する方法を考えること（=「国際共修」）が学びとなります。

○教壇実習

教壇実習は、国内と国外から一つ、選ぶことができます。国内は、大阪YMCAで留学生向けの日本語授業を見学し、教壇実習を行います。海外では、韓国のサンミョン大学という協定校で実施します。国内と海外では、日本語を学ぶ目的、学習者層、授業で使える言語の有無や種類、などの違いもあり、どんな日本語教育を経験したいかによって選んでください。

実習では、一つの授業を実施するにあたり、機関（大学、日本語学校、専門学校）、学習者、カリキュラムを理解した上で、目標設定、活動選択、授業計画、模擬授業、と多様な準備をした上で教壇実習に臨みます。



授業風景：学生による模擬授業



学生による実習風景

○課程修了と進路

国家資格にかかる26単位の修了に加え、文学部で独自に設置している45単位の日本語教員養成課程もあり、両方の修了書を得ることもできます。卒業生の中には学内外の大学院に進学し、国内や海外（アメリカ、中国、マレーシアなど）の大学で日本語を教える人もいます。また、教育機関や行政で国際交流や多文化共生支援にかかる仕事に就いている人もいます。他にも、異なる言語や価値観を越えて協力し合える力をもった卒業生が、幅広く多様な業界・職種で活躍しています。

○文学部の養成課程について知るには

立命館大学文学部の言語学・日本語教育専攻については、公式ウェブサイトをご覧ください。サイトには、授業例やゼミ、教員、先輩たちの声、卒業論文・卒業制作の例なども記載されています。

<https://www.ritsumei.ac.jp/lt/lc/linguist/>

問合わせ先
北出慶子教授
言語学・日本語教育専攻
kitade@lt.ritsumei.ac.jp

言葉を探る 言葉を教える
言葉でつなぐ

立命館大学大学院

言語教育情報研究科

立命館大学大学院 言語教育情報研究科
日本語教育学コース 日本語教員養成課程

○沿革と概要

立命館大学大学院 言語教育情報研究科は、日本語教育学、英語教育学、言語情報コミュニケーションの3分野を柱として、現代社会のニーズに応えられる高度な言語コミュニケーション能力、言語情報処理能力および言語教育能力を身につけた高度専門職業人の養成を目的とし2003年に設立されました。その設立当初から、日本語教育学プログラムは国内外の日本語教育機関と協定を結び、日本語教育実習を行っています。実習を通して多様な日本語学習者に対応できる教育力を身につけ、日本語教育学とその周辺領域に関する修士課程の授業と研究指導を通して、高度な専門知識と技能を身につけ、国内外の日本語教育機関で活躍する多くの日本語教師を輩出しています。

2019年度に法務省「日本語教育機関の告示基準」に則り日本語教育学コースに日本語教員養成課程を設置し、2024年度から国家資格化された登録日本語教員の制度に対しては、登録日本語教員の資格取得に係る経過措置において、「必須の教育内容50項目」に対応した日本語教員養成課程等としての確認を受けています。これにより、登録済みの日本語教員養成課程と同様、本研究科の日本語

教員養成課程を修了することで、日本語教員試験の基礎試験、および、実践研修が免除されます。(資格取得のためには、本課程修了に加えて、応用試験に合格することが必要です。)

日本語教師、日本語教育の専門家に必要な、言語学習のプロセス、言語教育、言語、言語と文化/社会の関係などの高度な専門知識と研究方法を学び、国内外の日本語教育機関における教育実習で実践力を身につけることができる体系的なカリキュラムを設定しています。学部で日本語教育や日本語学を専攻した人、現職の日本語教師、日本語や日本文化を専門として学んだ留学生など、多様なバックグラウンドを持った院生がお互いに刺激し合い、切磋琢磨できる環境を提供しています。

○受講資格・定員

受講資格は、本研究科日本語教育学コースの正規生であることです。研究科の定員は1学年60名で、日本語教育学コースとしての定員は設定していません。

○課程修了要件

日本語教育学コース所属院生が所定の要件を充足し研究科を修了した場合、「日本語教員養成課程修了証」を授与します。

具体的には、以下の①②③をすべて満たすことが必要です:

①「日本語教員養成課程」科目より「J11-日本語教育実践演習」と「J13-日本語教育学演習」(日本語教育実習)(必修*・各2単位)を含む、26単位以上修得し、うち12単位以上を日本語教育学コースコア科目から修得すること(*日本語教員養成課程では必修科目ですが、本研究科の修了要件としては必修ではありません。)

②「日本語教員養成課程」科目より「必須の教育内容」50項目をすべて修得すること

③言語教育情報研究科修了

○課程授業の一例

本研究科の日本語教員養成課程の科目は、すべて大学院修士課程の通常の科目であり、日本語教育学・日本語学研究の最先端の見聞をふまえた指導が行われています。

例えば、「J04-言語文化教育論」では、複言語・複文化主義をはじめ、多様な言語学習者の存在と言語教育観の在り方を理解し、言語教師としてことばや文化を内省できるようになることを目指しています。また、「J07-日本語学(文法)」では、日本語の文法についての基礎的知識を身につけた上で、文法現象を適切に分析する能力を身につけ、その知識と分析力を日本語をはじめとする外国語教育に応用することができるようになることを目指しています。



授業風景

○教壇実習

日本語教育学コースでは、「J13-日本語教育学演習(日本語教育実習)」において、国内外の日本語教育機関での教育実習(国内2週間、海外3週間)の機会を提供しています。

現在、国内では立命館アジア太平洋大学、そして日本語学校7校、海外では、中国、韓国、

台湾、ベトナム、オーストラリア、合計6つの大学で実習を行っています。



学生による実習風景

○学習支援体制

大学院生専用の共同研究棟があり、他の専門分野の院生とも交流することで研究の幅が広がります。実習参加、学会参加や発表についての支援制度があります。

○課程修了と進路

研究科修了後の進路は、日本語教員としては、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、滋賀大学、九州大学、青年海外協力隊、京都日本語学校、京都文化日本語学校など、一般企業は、JTB、NEC、NTTドコモ、P&G ジャパンなど、博士後期課程への進学は、本学文学研究科、人間科学研究科、京都大学人間・環境学研究科などがあります。

○立命館大学大学院 言語教育情報研究科の日本語教員養成課程について知るには
研究科 HP:

<https://www.ritsumei.ac.jp/gsleis/>

